

東海北陸厚生局長 殿

開設者名 国立大学法人  
学長 西頭 徳三

病院名 国立大学法人 富山大学附属病院

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成21年度の業務に関して報告します。

記

1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
3. 高度の医療に関する研修の実績 

研修医の人数	145人
--------	------

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	249人	29.1人	278.1人	看護補助者	27.0人	診療エックス線技師	0.0人
歯科医師	8人	5.6人	13.6人	理学療法士	3.0人	臨床検査技師	35.0人
薬剤師	28人	0.0人	28.0人	作業療法士	2.0人	臨床検査衛生検査技師	0.0人
保健師	0人	0.0人	0.0人	視能訓練士	4.0人	その他	0.0人
助産師	26人	0.0人	26.0人	義肢装具士	0.0人	あん摩マッサージ指圧師	0.0人
看護師	486人	13.3人	499.3人	臨床工学士	8.0人	医療社会事業従事者	3.0人
准看護師	0人	0.0人	0.0人	栄養士	0.0人	その他の技術員	34.0人
歯科衛生士	2人	0.0人	2.0人	歯科技工士	0.0人	事務職員	112.0人
管理栄養士	6人	0.0人	6.0人	診療放射線技師	28.0人	その他の職員	0.0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たりの平均入院患者数	514.3人	10.2人	524.5人
1日当たりの平均外来患者数	1,175.1人	51.3人	1,226.4人
1日当たりの平均調剤数			1,068.8剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	顕微鏡下精索静脈瘤手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 精索静脈瘤の手術において、顕微鏡下に静脈、リンパ管を温存し静脈のみを結紮する方法			
医療技術名	鏡視下腎手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下若しくは後腹膜腔鏡下に腎摘出術、腎部分切除を行うもの			
医療技術名	鏡視下腎尿管全摘出術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 内視鏡下に尿管口、膀胱壁をくりぬき腎尿管全摘出術を行うもの			
医療技術名	前立腺癌に対する高線量率組織内照射	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 小腺源療法の一つで前立腺に会陰部よりアプリーターを挿入し、小腺源(Ir-192)を出し入れすることにより、前立腺内部から照射を行う。周辺臓器への線量が抑えられる。			
医療技術名	鏡視下後腹膜腫瘍切除術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下に尿管腫瘍や膿瘍などの後膜疾患の切除を行う			
医療技術名	前立腺癌に対する強度変調放射線照射(IMRT)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 照射方向、強度を調整し、標的臓器(前立腺)には十分な照射量を確保しつつ、周辺臓器(膀胱、直腸、消化管など)への照射量を減らし、有害事象を減らす方法			
医療技術名	陰の3内疾患に対する超音波カラードップラー法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 精索静脈瘤を中心に陰の3内疾患に対してカラードップラー法を用いて、血流などの精査を行っている			
医療技術名	精子自動解析(SMAS)による精子機能解析	取扱患者数	160人
当該医療技術の概要 精子濃度、運動率のほか、特に精子運動能力についての詳細な解析を行っている			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	PTA(経皮経管血管形成術)	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要 閉塞性血管病変に対して、セルディング法により経皮的に血管内にバルーン付きカテーテルを挿入し、X線透視下にガイドワイヤーを用いてカテーテルを通過させ、バルーンを高圧拡張させることにより血管内腔拡大を得る方法。術中には塞栓症や血管攣縮の発生などに注意する。			
医療技術名	PCI(経皮的冠状動脈インターベンション)	取扱患者数	61人
当該医療技術の概要 冠状動脈の病変に対してカテーテル手技を用いて施行する血管治療の総称。器具の改良と進歩により、近年飛躍的に発展と遂げ治療の適応が拡大した。従来のバルーンによる血管拡張(PTCA,POBA:plain old balloon angioplasty)や血栓溶解薬の注入に加え、各種のステント、アテレクトミー、ロータブレード等さまざまなデバイスが開発されており、血管病変の形態・形状により各種デバイスを単独あるいは組合わせて臨床に使用されている。バルーン、ステントなど特殊な器材材料を使用することが			
医療技術名	PTMC(経皮的経静脈的僧帽弁交連切開術)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 僧帽弁口をカテーテルに取り付けた小さなバルーン(最大拡張径2~3cm)で拡げることにより、僧帽弁狭窄を治療する方法。カテーテルは静脈より挿入され、右房から穿刺した心房中隔を経て僧帽弁口に至る。ここでひょうたん型のバルーンのくびれを弁口に合わせるようにしてバルーンを拡張し、癒着した僧帽弁の交連部を拡げる。この方法による合併症として、僧帽弁逆流の増強、心房中隔穿孔部の残存があるが、通常その程度は軽い。また稀に脳塞栓、心穿孔が起こる可能性がある。			
医療技術名	TAE, TACE(動脈塞栓術)	取扱患者数	159人
当該医療技術の概要 動脈塞栓術(TAE)は、血管造影の手技を利用して目標となる血管に選択的に挿入したカテーテルから、各種塞栓物質を注入する治療法の総称。肝細胞癌に対する抗癌剤を併用した塞栓術(transcatheter arterial chemoembolization:TACE)は、再発を含めた多発例において第一選択の治療法である。油性造影剤と抗癌剤の懸濁液を注入したのち、栄養動脈の血流をゼラチンスポンジ細片で遮断する。			
医療技術名	PM, ICD, CRT-D植込術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 ペースメーカはジェネレーターとリードからなり、リードを1本もしくは複数本を経静脈的に挿入する。一般的な残置部位として、右心耳と右心室先端部がある。植込み時には電極の位置移動、穿孔(心タンポナーデ)、気胸、ポケット内の血腫、感染に注意が必要。植込み型除細動器(ICD)は致死性不整脈である心室頻拍(VT)・心室細動(VF)を自動認識し、それに対して抗頻拍ペーシング(anti-tachycardia pacing:ATP)あるいは直流電流による除細動治療を行う植込み型の装置である。CRT-			
医療技術名	EPS(電気生理検査)	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 電極の付いたカテーテルを経静脈的に心臓内挿入し刺激伝導系の検査を行う。			
医療技術名	ABL(カテーテル・アブレーション)(経皮的カテーテル焼灼術)	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 カテーテル・アブレーション(焼灼術)は、電極カテーテルを用いて頻拍の原因となる異所性刺激生成部位あるいはリエントリー回路内を高周波エネルギーで電氣的に不活性化させ、不整脈を根治させる方法			
医療技術名	経皮的血管撮影	取扱患者数	1000人
当該医療技術の概要 血管内に造影剤を注入してX線撮影を行う検査法。対象となる血管により、動脈造影と静脈造影がある。方法として、経皮的に直接穿刺をして造影剤を注入する方法、血管内に挿入したカテーテルから造影剤を注入する方法がある。外科的侵襲なしに			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	強度変調放射線治療:IMRT(前立腺)	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
線量、線量分布、照射位置の担保。線量、線量分布の誤差は検証を行い、3mm、3%以内を担保。照射位置は治療毎にコンビームCTを撮影して誤差3mm以内を担保。			
医療技術名	定位放射線手術(脳):SRS	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
定位用固定マスクを使用し照射位置誤差2mm以下を担保。線量の誤差は検証を行い3%以内を担保。			
医療技術名	定位放射線手術(肺):SRT	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
呼吸による肺の動きをモニタリングし、一定の呼吸相で停止して照射。呼吸性移動対策により照射位置精度を担保。線量の誤差は検証を行い3%以内を担保。			
医療技術名	CT angio	取扱患者数	626人
当該医療技術の概要			
高速なマルチスライスCT検査装置及び専用の3Dワークステーションを用いて動脈瘤などの診断、治療計画を支援する。			
医療技術名	IMP・ARG1日法(脳循環予備能定量一日法)	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要			
安静時、負担時の検査を1時間かけ同日中に行う検査。静注3回、動脈採血1回、解析が複雑2時間以上かかる。			
医療技術名	腫瘍全身糖代謝PET検査	取扱患者数	789人
当該医療技術の概要			
糖が腫瘍に集まることを利用し、全身の分布をみる検査。			
医療技術名	SPECT-CT検査	取扱患者数	341人
当該医療技術の概要			
SPECTを収集した後、CTを収集し重ね合わせて表示するため位置関係が理解しやすくなる検査。			
医療技術名	遊離骨皮弁による下顎再建	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
新生物により下顎骨区域切除を行った後の下顎骨に対する遊離肩甲骨を用いた即時再建術。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	ポリペクトミー	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
内視鏡を用い主に食道や胃、大腸などの早期ガン及びポリープの治療に用いられる外科的手法。間膜外科手術と比較して、内視鏡を用いるポリペクトミーの方がより、患者に少ない負担で手術を行える。			
医療技術名	ERCP(内視鏡的逆行性膵管造影)	取扱患者数	140人
当該医療技術の概要			
総胆管に内視鏡を用いて直視的に十二指腸乳頭屈閉口部からカテーテルを挿入し、造影剤を逆行性に注入しながら膵、胆管をX線透視下に直接透視造影する検査方法である。早期の膵臓ガン、胆管ガン、慢性膵炎の障害レベルなど、精度の高い画像が得られる。			
医療技術名	EMR(内視鏡的粘膜切除術)	取扱患者数	180人
当該医療技術の概要			
内視鏡を用い、隆起の丈が低い疾患に対して、粘膜下に食塩水、薬剤などを注入して、隆起を高くさせ切除する。ポリペクトミーに比べて血や穿孔を起こしやすい為、高度の医療技術を要する。			
医療技術名	食道静脈瘤硬化療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
内視鏡を用い食道静脈瘤を確認しながら、局注射と呼ばれている処置具を用いて硬化剤を注入して静脈瘤を固める治療方法である。			
医療技術名	PTCD(経皮肝胆管ドレナージ)	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要			
胆管が腫瘍、胆石、炎症などにあり、閉塞して全胆汁がうっ滞すると、胆汁の成分の一部が血液中に逆流して、黄疸(高ビリルビン血症)が発症する。PTCDは直接皮膚から肝臓内の胆管に穿刺針を刺し、造影剤を注入して胆造の異常の有無を検査しながら、その穿刺針を留置用のチューブに置き換えて胆汁を体外に排泄する治療方法である。			
医療技術名	小腸内視鏡	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要			
食道、胃、大腸の内視鏡検査・治療は従来より行われてきたが、小腸は非常に長いうえに腸間膜を有し可能性に富むため挿入・検査がきわめて難しく、高度の技術を要し、X線透視下でなければ行うことが出来ない検査である。			
医療技術名	尿管ステント留置術	取扱患者数	78人
当該医療技術の概要			
尿管とは腎臓と膀胱をつなぐ管で尿管が何らかの原因(結石、腫瘍、炎症など)で狭くなったり、閉塞してしまうと腎臓からの尿が膀胱に流れないため痛み、発熱、腎機能の悪化を生じる。症状が著しい場合には命をおびやかす可能性がある。この状態を改善する目的で尿管内に細い管(カテーテル)をX線透視室で造影剤を用いながら留置する治療である。			
医療技術名	腎瘻造設術	取扱患者数	180人
当該医療技術の概要			
尿管通過障害に関しては尿管ステント留置術と同様であるが、やや侵襲的である。皮膚を切開し、エコガイド下で腎杯をめがけて穿刺針を刺す。ガイドワイヤー、ダイレクターを用いて、腎カテーテルを留置する治療である。その際、造影剤を用いてX線透視下で行う手技である。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	粘膜-粘膜骨膜複合弁による口蓋形成術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
口蓋発症に対する口蓋形成術後、顎発育を防げない際の手術法。口蓋弁の参上法に特殊技術を必要とする。			
医療技術名	口腔癌に対する選択的動注化学療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
口腔癌に対し大腿動脈よりカテーテルを挿入して、腫瘍占拠領域を栄養としている動脈より、抗癌剤を投与する。			
医療技術名	羊水中の起因菌をPCR法にて固定	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
羊水中の細菌感染をPCR法を用いて行なうことにより、同日中に細菌感染の有無を判定する。			
医療技術名	頸管中のIL-8測定による頸管症の診断	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要			
子宮頸管中のIL-8を定量化することにより、頸管炎の診断を行なっている。			
医療技術名	羊水中のIL-8定量による絨毛膜羊膜炎の診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
切迫早産例で絨毛膜羊膜炎の有無を判定するためIL-8値を定量している。			
医療技術名	ヒト乾燥羊膜移植術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
難治性角膜疾患緑内障の症例に外科的にヒト乾燥羊膜パッチを移植手術する。			
医療技術名	増殖性硝子体網膜症手術	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要			
眼内増殖性の強い疾患(増殖糖尿病網膜症、難治性網膜剥離など)に対して行う手術。			
医療技術名	光線力学療法	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要			
加齢黄斑変性に対する有効な治療法として行う。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。



## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	角膜移植術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
前眼部疾患による視力不良例に角膜移植術を行う。また、角膜パート移植も含まれる。			
医療技術名	エピソードスコーピー	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症・Fatled back surgery syndromeなどの患者に対し、仙骨裂孔から硬膜外腔に内視鏡を挿入し、硬膜外腔の癒着を剥離する技術。			
医療技術名	心房細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要			
薬剤治療に抵抗性の発作性心房細動患者に根治を目的に行っている。			
医療技術名	重症心不全患者に対する心臓再同期療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
難治性心不全患者左足ブロックや心室内伝導障害を有する例に両心室ペーシングを行い、心不全症状と予後の改善を図る。			
医療技術名	心不全、虚血性心疾患に対する和温療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
心機能改善、QOL/運動耐容能改善を図るため、薬剤治療に抵抗性の心不全や狭心症例を対象に全身の温熱療法(和温療法)を行っている。			
医療技術名	子宮内感染症における感染菌の迅速遺伝子診断	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要			
子宮内感染症は早産の最大の原因であるため、感染症の早期診断が求められる。大学独自の遺伝子診断技術の開発により、2時間程度という世界最速で診断するシステムを構築した。			
医療技術名	能動脈瘤塞栓術	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要			
血管内から病変を治療する手術。大腿動脈(時に総頸動脈、肘動脈、大腿静脈)を穿刺して、経皮的カテーテル法で透視下にカテーテルを病変部に誘導し、コイルにて動脈瘤内部を塞栓する。バルーン、ステントなど特殊な器材材料を使用することが多いため熟練を要する。			
医療技術名	能動静脈奇形塞栓術・硬膜同静脈瘻塞栓術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
血管内から病変を治療する手術。大腿動脈(時に総頸動脈、肘動脈、大腿静脈)を穿刺して、経皮的カテーテル法で透視下にカテーテルを病変部に誘導し、コイル、液体塞栓物質にて塞栓する。フローガイドカテーテル、液体塞栓物質など特殊な器材材料を使用することが多いため熟練を要する。外頸動脈系の硬膜栄養血管をPVAなどの粒状塞栓材料、NBCAなどの液体材料、コイルを用いて閉塞する経動脈塞栓術と、根治を目指して罹患静脈や静脈洞を主に離脱型コイルで塞栓する経静脈塞栓			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	頸動脈ステント留置術(CAS)・頭蓋内血管形成術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要			
血管内から病変を治療する手術。大腿動脈(時に総頸動脈、肘動脈、大腿静脈など)を穿刺して、経皮カテーテル法で透視下にカテーテル病変部に誘導し治療を行う。バルーン、ステント、フィルターなど特殊な器材材料を使用することが多いため熟練を要する。抗血小板療法(術前から継続)、抗凝固療法(術中)、術後の除脈・低血圧・過灌流に対する備えが必要が重要。			
医療技術名	脳腫瘍塞栓術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要			
血管内から病変を治療する手術。大腿動脈(時に総頸動脈、肘動脈、大腿静脈など)を穿刺して、経皮カテーテル法で透視下にカテーテル病変部に誘導し、腫瘍への流入血管を塞栓物質で塞栓する。			
医療技術名	薬剤動注療法(頭部)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
血管内から病変を治療する手術。大腿動脈(時に総頸動脈、肘動脈、大腿動脈など)を穿刺して経皮カテーテル法で透視下にカテーテルを病変部に誘導し、血栓塞栓症や血管閉塞、血管攣縮に対して、超選択的に薬剤を注入する。			
医療技術名	BRTO(バルーン下逆行性経静脈的塞栓術)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
胃静脈瘤の治療法で、1991年に金川らが開発した。経大腿静脈または経内頸動脈的に胃静脈瘤(Lg-cf, Lg-f)の排血路(主に脾臓短絡路)側から逆行性に硬化薬を注入し、静脈瘤を塞栓する。			
医療技術名	ポートシステム設置	取扱患者数	82人
当該医療技術の概要			
カテーテルを動脈もしくは静脈内に留置し、皮下に留置したシステムよりカテーテル内に薬剤を注入する。システムの設置部位に、鎖骨下や鼠径部などがある。			
医療技術名	IVCフィルター設置	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
主に骨盤内から下肢の深脈静脈に何らかの原因で血栓を形成され急性期には血栓が肺動脈を閉塞し、致死的な肺血栓閉塞症を合併する。その防止策として、金属のフィルタを下大静脈内に挿入・留置して、遊離した血栓を捕獲し致死的な肺血栓閉塞症を防ぐ。			
医療技術名	覚醒下間頭脳腫瘍摘出術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
覚醒下手術により、脳機能温存をめざす外科治療。			
医療技術名	低体重新生児水頭症外科治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
低体重で出生した新生児水頭症に対する総合的外科治療。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	新機械を用いた血管内治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
新しく開発されたコイル、ステントを能動脈瘤、頸動脈狭窄症に対する血管内治療			
医療技術名	神経内視鏡を併用した頭蓋底手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
手術顕微鏡・内視鏡を併用した深部脳腫瘍に対する手術。			
医療技術名	悪性黒色腫におけるγプローブを用いたセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
放射線同位体を注射する注射後、γプローブを用いリンパ節を固定生検を行う。			
医療技術名	水疱性天疱症に対する血漿変換療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
難治性水疱性天疱症例に対し血漿変換療法を行った。			
医療技術名	f-MRI(functional MRI)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
一般的には脳機能賦活時の局所脳組織の酸素消費量と血液量不均衡をBOLD効果に基づく信号強度変化として測定し、脳機能賦活領域の局在を画像化する方法。			
医療技術名	MRS (magnetic resonance spectroscopy)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
MRを用いて化学シフトなどの分子構造に起因するパラメータを測定することによって、化学物質の分析や固定を行う手法。			
医療技術名	SWI(susceptibility weighted imaging)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
局所の磁化率変動に非常に敏感なグラディエントエコーシーケンスを利用して、脳内の微細な出血や血管を抽出する技法。位相情報を用いて磁化率を強調した画像を作成する。			
医療技術名	perfusion weighted imaging	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
MRを用いて組織灌流を画像化する手法。一定のトレーサー付与によるMR信号強度変化から血流量、血液量。平均通過時間など血流動態を画像化する。造影剤を用いるDSC法と造影剤を用いないASL法がある。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	3DMRIのVBM (voxel-based morphometry)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要			
高解像度(1mm立法)で全脳三次元T1強調撮影したデータセットを画像解析ソフトウェアを用いてVBM法による解析を行い、脳の体積変化を抽出する手法。			
医療技術名	DTI (diffusion tensor imaging)	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要			
生体構造などの異方的構造を持つ組織の中で拡張現象を表すために表すために用いられる2階のテンソル量。すなわち水分子の拡散が特定の方向にのみよく拡散するという性質を利用し、複数のベクトルを表したもの。			
医療技術名	DTT (diffusion tensor tractgraphy)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
主に中枢神経において白質の神経線経路が異方性拡散する性質を利用し、個々の神経線経路を抽出する予定。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

特定疾患治療事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
ベーチェット病	32人	原発性胆汁性肝硬変	25人
多発性硬化症	38人	重症急性膵炎	1人
重症筋無力症	23人	特発性大腿骨頭壊死症	15人
全身性エリテマトーデス	124人	混合性結合組織病	21人
スモン	1人	原発性免疫不全症候群	8人
再生不良性貧血	9人	特発性間質性肺炎	8人
サルコイドーシス	30人	網膜色素変性症	53人
筋萎縮性側索硬化症	16人	プリオン病	人
強皮症・皮膚筋炎及び多発性筋炎	70人	原発性肺高血圧症	2人
特発性血小板減少性紫斑病	22人	神経線維腫症	4人
結節性動脈周囲炎	13人	亜急性硬化性全脳炎	人
潰瘍性大腸炎	78人	バット・キアリ症候群	人
大動脈炎症候群	11人	特発性慢性肺血栓栓症	1人
ビュルガー病	15人	ライソゾーム病	人
天疱瘡	7人	副腎白質ジストロフィー	1人
脊髄小脳変性症	28人	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	人
クローン病	51人	脊髄性筋萎縮症	人
難治性肝炎のうち劇症肝炎	1人	球脊髄性筋萎縮症	2人
悪性関節リウマチ	23人	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	2人
パーキンソン病関連疾患	112人	肥大型心筋症	1人
アミロイドーシス	1人	拘束型心筋症	人
後縦靭帯骨化症	31人	ミトコンドリア病	3人
ハンチントン病	人	リンパ脈管筋腫症	人
ウイルス動脈輪閉塞症	14人	重症多形滲出性紅斑(急性期)	人
ウェゲナー肉芽腫症	4人	黄色靭帯骨化症	人
特発性拡張型(うっ血型)心筋症	35人	間脳下垂体機能障害	5人
多系統萎縮症	17人		
表皮水疱症(接合型及び栄養障害型)	人		
膿疱性乾癬	1人		
広範脊柱管狭窄症	6人		
合計			965人

(注)「取扱い患者数」欄は、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	高齢者における骨粗鬆症による骨折と脂肪酸との関連	濱崎 景	公衆衛生学	1600000	■ 補 文部科学省 委
2	和漢薬が癌に効く:十全大補湯の抗腫瘍効果の分子病理学的解明	高橋 博之	病理診断学	1200000	■ 補 文部科学省 委
3	SIRT1活性化によるインスリン抵抗性改善機構に関する研究	金谷 由紀子	第1内科	1400000	■ 委 文部科学省 補
4	肝炎ウイルスに対するモノクローナル抗体が認識するエピトープと中和能の検討	田尻 和人	免疫学	1400000	■ 補 文部科学省 委
5	表皮角化関連分子の系統的解析とヒト疾患への応用	牧野 輝彦	皮膚科	1500000	■ 補 文部科学省 委
6	食道癌および胃癌における腫瘍幹細胞と骨髄由来細胞の相互作用の解析	奥村 知之	消化器・腫瘍・統合外科	2100000	■ 補 文部科学省 委
7	前立腺癌に対する放射線刺激応答性人工プロモーターの開発	渡部 明彦	腎泌尿器科学	1600000	■ 補 文部科学省 委
8	妊娠高血圧症候群の病態解明ーサイトカイン分泌に対するオートファジー応答の観点から	中島 彰俊	産科婦人科学	1700000	■ 補 文部科学省 委
9	脳高次機能および修復反応における血小板由来増殖因子シグナル解明	笹原 正清	病態・病理学	5100000	■ 補 日本学術振興会 委
10	成長に伴う制御性T細胞の機能発達とその異常に関する研究	宮脇 利男	小児科学	2800000	■ 補 日本学術振興会 委
11	ヒト羊膜細胞による心筋ペースメーカー細胞の樹立と新たなペーシング療法の開発	三崎 拓郎	呼吸・循環・統合外科	1900000	■ 補 日本学術振興会 委
12	運動器疾患感受性遺伝子の機能解明に立脚した軟骨変性治療	木村 友厚	整形外科・運動器病学	3700000	■ 補 日本学術振興会 委
13	生殖免疫の立場から見た不育症、早産、妊娠高血圧症候群の病態解明	齋藤 滋	産科婦人科学	5000000	■ 補 日本学術振興会 委
14	豊かな環境における中枢神経新生を介した慢性疼痛に対する治療戦略	山崎 光章	麻酔科学	7900000	■ 補 日本学術振興会 委
15	統合失調症警告期の新しい診断法と早期治療法の開発:認知機能と脳機能画像による検討	住吉 太幹	神経精神医学	800000	■ 補 日本学術振興会 委
16	こころのリスク状態における脳構造および脳機能の解明	中村 主計	神経精神科	600000	■ 補 日本学術振興会 委

17	マウスES細胞による心筋ペースメーカー細胞の樹立と新たな細胞ペーシング療法の開発	柳 堅徳	集中治療部	1100000	■ 補委	日本学術振興会
18	神経幹細胞分化を誘導する血小板由来増殖因子の機能解明	石井 陽子	病態・病理学	1100000	■ 補委	日本学術振興会
19	一分子蛍光相関法による転写因子NF- $\kappa$ B高感度・迅速検出法開発と救急医療への応用	北島 勲	臨床分子病態検査学	1300000	■ 補委	日本学術振興会
20	多目的コホートでの血液脂肪酸構成から見た心筋梗塞・脳卒中の症例・対照研究	濱崎 智仁	臨床利用	500000	■ 補委	日本学術振興会
21	超音波エネルギーを利用した多剤耐性肝癌の新しい治療法の開発	峯村 正実	第3内科	800000	■ 補委	日本学術振興会
22	イヌ心房細動リモデリング修復に対する薬物併用効果	藤木 明	第2内科	1600000	■ 補委	日本学術振興会
23	心不全の自律神経機能の概日リズム異常と中枢性CO <sub>2</sub> 化学反射感受性に関する研究	井上 博	内科学(第二)	1000000	■ 補委	日本学術振興会
24	脳インスリン抵抗性による認知障害の防止に向けたリピッドホスファターゼの意義の解明	笹岡 利安	病態制御薬理学	1000000	■ 補委	日本学術振興会
25	心筋緻密化障害における予後推定因子としてのNa <sup>+</sup> チャンネル遺伝子変異の検討	市田 蒔子	小児科学	1100000	■ 補委	日本学術振興会
26	マクロファージ遊走阻止因子の表皮における役割、作用機序の解明	浅野 幸恵	皮膚科	900000	■ 補委	日本学術振興会
27	水疱性類天疱瘡の病態解明と新規治療法の開発	清水 忠道	皮膚科学	1200000	■ 補委	日本学術振興会
28	統合失調症発症に関わる社会性獲得障害と心理社会的治療に関する生物学的研究	川崎 康弘	神経精神科	1100000	■ 補委	日本学術振興会
29	統合失調症におけるミラーニューロンシステムの構造・機能解析と早期補助診断への応用	鈴木 道雄	神経精神医学	600,000	■ 補委	日本学術振興会
30	サルを用いた強大音による外眼筋誘発筋電位動物モデル作成	将積 日出夫	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	500,000	■ 補委	日本学術振興会
31	多種類の刺激様式による前庭性高次脳機能応答に関する研究	渡邊 行雄	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	500,000	■ 補委	日本学術振興会
32	ナノ粒子を利用した特異的温度制御による口腔癌治療	和田 重人	歯科口腔外科	1,000,000	■ 補委	日本学術振興会
33	口腔癌の顎骨浸潤の様態とそのメカニズムの解明—分子診断への応用—	野口 誠	歯科口腔外科学	1,000,000	■ 補委	日本学術振興会
34	迅速・簡便・安価な敗血症起因菌同定ITシステムの構築	仁井見 英樹	検査部	1,500,000	■ 補委	日本学術振興会
35	低酸素適応応答機構における和漢薬の標的分子と病態変化の解析	後藤 博三	和漢診療学	1,600,000	■ 補委	日本学術振興会
36	漢方薬による褥瘡治療の作用機序の解明	引網 宏彰	和漢診療科	1,500,000	■ 補委	日本学術振興会
37	脂肪組織M1、M2マクロファージによるインスリン抵抗性の制御についての研究	戸辺 一之	内科学(第一)	2,700,000	■ 補委	日本学術振興会
38	抗体産生不全症における自然免疫系の異常に関する研究	金兼 弘和	小児科	2,000,000	■ 補委	日本学術振興会
39	必須多価不飽和脂肪酸を指標にした認知症に伴う周辺症状の発症予測の試み	上原 隆	神経精神科	1,500,000	■ 補委	日本学術振興会
40	新規遺伝子解析法を用いた乳癌の治療効果予測に関する探索的研究	長田 拓哉	第2外科	1,500,000	■ 補委	日本学術振興会



41	ヒト正常胆嚢上皮と胆嚢癌におけるアクアポリンの役割解析	塚田 一博	消化器・腫瘍・統合外科	1,300,000	■ 補委	日本学術振興会
42	オートファジー誘導による悪性グリオーマ治療抵抗性克服の試み	栗本 昌紀	脳神経外科	2,200,000	■ 補委	日本学術振興会
43	敗血症病態がペースメーカー細胞に及ぼす影響—遺伝子による不整脈治療戦略の構築—	畠山 登	手術部	1,000,000	■ 補委	日本学術振興会
44	前立腺癌におけるHGF関連因子の発現と浸潤・増殖機構に及ぼす影響	布施 秀樹	腎泌尿器科学	1,000,000	■ 補委	日本学術振興会
45	早産例における分娩監視ならびに羊水所見からみた適切な分娩時期の決定	米田 哲	周産母子センター	1,900,000	■ 補委	日本学術振興会
46	十全大補湯の抗腫瘍効果の分子病理学的解明：新規抗癌剤開発の糸口	高野 康雄	病理診断学	600,000	■ 補委	日本学術振興会
47	e-learningとバーチャルスライドを用いた医学病理学教育システムの構築	石澤 伸	病態・病理学	700,000	■ 補委	日本学術振興会
48	BMPR2変異間質細胞による大腸上皮細胞増殖に関わる因子の同定	別府 秀幸	臨床分子病態検査学	1,070,000	■ 補委	日本学術振興会
49	胃上皮特異的プロモーター・JCV/TGマウスモデルによるJCVの胃癌原性の解明	高野 康雄	病理診断学	800,000	■ 補委	日本学術振興会
50	不育症治療に関する再評価と新たな治療法の開発に関する研究	齋藤 滋	医学薬学研究部(医)	26,439,000	■ 補委	厚生労働省
51	前庭機能異常に関する調査研究	渡邊 行雄	医学薬学研究部(医)	23,000,000	■ 補委	厚生労働省
52	アラキドン酸補給の安全性に関する研究	浜崎智仁	和漢医薬学総合研究所	13,524,000	■ 補委	厚生労働省
53	日本・中国・韓国における生薬と治療処方剤の異同性に関する国際比較調査研究	柴原直利	和漢医薬学総合研究所	1,562,000	■ 補委	厚生労働省
54					補委	
55					補委	
56					補委	

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。  
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

No.	雑誌	題名	命題	発表者氏名	所属部門
1	Inflamm (Lond), 27	Inhibitory effect of IL-8 on insulin action in human adipocytes via MAP kinase pathway		Kobashi C	第一内科
2	Diabetes, 56(11)	Regulatory mechanisms for adipose tissue M1 and M2 macrophages in diet-induced obese mice		Fujisaka S	第一内科
3	Clin Rheumatol, 28	Radiographic progression in weight-bearing joints of patients with rheumatoid arthritis after TNF-blocking therapies		Seki E	第一内科
4	J Pharmacol Sci, 109(Suppl.1)	Up-regulation of insulin signal in cerebral tissues of polymicrobial septic mice		Yokoo H	第一内科
5	Circ J, 73	Novel LAMP-2 mutation in a family with Danon disease presenting with hypertrophic cardiomyopathy		Degu N	神経内科
6	Circ J, 73	dL-Sotalol reverses abbreviated atrial refractoriness and prevents promotion of atrial fibrillation in a canine model with left ventricular dysfunction induced by atrial tachypa		Sakamoto T	第二内科
7	Int J Cardiol, 137	Prevalence of atrial fibrillation in the general population of Japan: an analysis based on periodic health examination		Inoue H	第三内科
8	Int J Cancer, 124	DNA methylation of microRNA genes in gastric mucosae of gastric cancer patients: its possible involvement in the formation of epigenetic field defect		Ando T	第三内科
9	J Hepatol, 51	Lipopolysaccharide triggered TNF- $\alpha$ induced hepatocyte apoptosis in a murine non-alcoholic steatohepatitis model		Kudo H	第三内科
10	Liver Int, 29	Telmisartan attenuates progression of steatohepatitis in mice: role of hepatic macrophage infiltration and effects on adipose tissue		Kudo H	第三内科
11	World J Gastroenterol, 15	Systemic abnormalities in liver diseases		Minemura M	第三内科
12	Scand J Gastroenterol, 44	Diversity of mucosa-associated microbiota in active and inactive ulcerative colitis		Nishikawa J	第三内科
13	World J Gastroenterol, 14	Practical guidelines for diagnosis and early management of drug-induced liver injury		Tairi K	第三内科
14	Cytometry A, 75	A novel method for analyzing multiple parameters on lymphocytes with a single fluorophore in cell-microarray system		Tajiri K	第三内科
15	Eur J Gastroenterol Hepatol, 21	Role of liver-infiltrating CD3+CD56+ natural killer T cells in the pathogenesis of nonalcoholic fatty liver disease		Tajiri K	第三内科
16	漢癩, 36	GERD診断の新たな非侵襲的検査法 modified Glucose Clearance Testの有用性		藤浪 斗	第三内科
17	Eur J Dermatol, 19	Occupational cobalt induced systemic contact dermatitis		Asano Y	皮膚科
18	J Dermatol, 38	Giant cystic basal cell carcinoma mimicking epidermal cyst		Matsui K	皮膚科
19	Clin Exp Dermatol, 34	Effective treatment of angiosarcoma on the nose by combination treatment with electron beam irradiation, recombinant interleukin-2 and docetaxel		Asano Y	皮膚科
20	Dermatol, 34	Squamous cell carcinoma arising from Darier's disease. Clin. Exp		Matsui K	皮膚科
21	新薬と臨床, 58	皮膚薬の簡易測定法の検討		古市 寛	皮膚科
22	新薬と臨床, 58	人免疫グロブリン製剤大量静注療法が奏効した落葉状天疱瘡の2例		原 葉	皮膚科
23	Heart Vessels, 24	Echocardiographic and electrocardiographic analyses of patients with severe motor and intellectual disabilities		Hirono K	皮膚科
24	Pediatr Res, 65	Infliximab reduces the cytokine-mediated inflammation but does not suppress cellular infiltration of the vessel wall in refractory Kawasaki disease		Hirono K	小児科
25	Pediatr Int, 51	Hepatocyte growth factor in transient myeloproliferative disorder of Down syndrome		Hirono K	小児科
26	Circ J, 73	Cardiac resynchronization therapy in a 3-year-old girl with isolated noncompaction of the left ventricle and narrow QRS complex		Hirono K	小児科
27	A three-dimensional analysis with eLORETA	Effect of perispirone on P300 electrophysiological activity and social cognition in schizophrenia		Sumiyoshi T	神経精神科
28	Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci, 259	Exploratory eye movement dysfunction as a discriminator for schizophrenia: A large sample study using a newly developed digital computerized system		Suzuki M	神経精神科
29	Schizophr Res, 108	Follow-up MRI study of the insular cortex in first-episode psychosis and chronic schizophrenia		Takahashi T	神経精神科
30	Schizophr Res, 108	Increased pituitary volume in schizophrenia spectrum disorders		Takahashi T	神経精神科
31	Psychiatry, 66	Progressive gray matter reduction of the superior temporal gyrus during transition to psychosis. Arch. Gen		Takahashi T	神経精神科
32	Neuroimaging, 172	The Disrupted-In-Schizophrenia-1 Ser704Gys polymorphism and brain morphology in schizophrenia. Psychiatry Res		Takahashi T	神経精神科
33	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry, 33	Diagnostic specificity of the insular cortex abnormalities in first-episode psychotic disorders		Takahashi T	神経精神科
34	Schizophr Res, 111	Insular cortex gray matter changes in individuals at ultra-high-risk of developing psychosis		Takahashi T	神経精神科
35	Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry, 33	Midline brain structures in teenagers with first-presentation borderline personality disorder. Prog Neuropsychopharmacol Biol		Takahashi T	神経精神科
36	Psychiatry, 33	Increased pituitary volume in patients with established bipolar affective disorder. Prog		Takahashi T	神経精神科
37	Schizophr Res, 113	An MRI study of the superior temporal subregions in first-episode patients with various psychotic disorders		Takahashi T	神経精神科
38	Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry, 33	Insular cortex volume and impulsivity in teenagers with first-presentation borderline personality disorder. Biol		Takahashi T	神経精神科
39	Psychiatry, 33	Long-term effects of neonatal MK-801 treatment on prepulse inhibition in young adult rats		Takahashi T	神経精神科
40	Psychopharmacology (Berl), 206	Insular cortex volume and impulsivity in teenagers with first-presentation borderline personality disorder. Biol		Takahashi T	神経精神科
41	J Thorac Cardiovasc Surg, 137	Surgical management of multiple ventricular septal defects: The role of the fat sandwich technique		Uehara T	第一外科
42	Gen Thorac Cardiovasc Surg, 57	Surgical strategy for pulmonary atresia with intact ventricular septum: initial management and definitive surgery		Yoshimura N	第一外科
43	Lymphat Res Biol, 7	Inducible capillary formation in lymphatic endothelial cells by blocking of lipid phosphate phosphatase-3 activity		Sanda K	第一外科
44	Scand J Surg, 98	Surgery for Treatment of Spontaneous Hemopneumothorax		Homma T	第一外科
45	胸部外科, 62	まいてくにつく 大動脈瘤に対するend-to-end anastomosis法		芳村直樹	第一外科
46	胸部外科, 62	まいてくにつく OPOABにおける大動脈 グラフト吻合のコツ		湖東 隆樹	第一外科
47	ハートナーニング, 22	ドクターの目 ナースの目 どちらも知りたいたい 心臓手術と術後管理よりくまりガイト 心原中隔友損症・心室中隔友損症手術		芳村直樹	第一外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成績を原稿論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

No.	種別	題名	論文発表等の要綱	著者氏名	所属部門
2	論文発表等の要綱				
48	ハードウェア	22	ドクターの目 ナースの目 どちらも知りたい！心臓手術と術後管理よく知りカゲリ(第24回)ラステリ(Rastele)型手術	芳村直樹	第一外科
49	ハードウェア	23	難治性気腫に対する治療戦略-気管支永続術と50cmH2O以下に行う胸腔鏡手術法の併用-	本間崇浩	第一外科
50	Gen. Thorax Cardiovasc Surg.	57	CDMA microarray analysis of esophageal cancer : discoveries and prospects	Shimada Y	第二外科
51	J Physiol Sci	59	Involvement of aquaporin-5 in differentiation of human gastric cancer cells	Watanabe T.	第二外科
52	外科	71	特異 胆道腫瘍形成因子を分子標的 3.胆道腫瘍形成因子を分子標的とコンセンサス	塚田一博	第二外科
53	消化器外科	31	30周年記念特集 手術の王道は肝・胆・膵 胆の手術 胆管腫瘍手術-必要最小限手術の選択	塚田一博	第二外科
54	消化器外科	66B-873, 2009	消化器腫瘍の診断・治療 胆管と外科治療の選択	塚田一博	第二外科
55	外科治療	100	肝臓癌合併肺結核に対するマイクロ波凝固併用肝部分切除	吉岡伊作	第二外科
56	Neural Med Chir (Tokyo)	49	Neuropsychological changes after endoscopic third ventriculostomy for long-standing overt ventriculomegaly in adults	Hamada H	脳神経外科
57	J Orthop Sci	14	Intraoperative patellar tendon strain: predicting the range of knee flexion after total knee arthroplasty	Gejo R	整形外科
58	Hum Pathol	40(3)	Alveolar rhabdomyosarcoma of the head and neck region in older adults; genetic characterization and a review of the literature	Yasuda T	整形外科
59	J Exp Clin Cancer Res	28(1)	Establishment of a new human osteosarcoma cell line, U10S-1, cytogenetic characterization by array comparative genomic hybridization	Yasuda T	整形外科
60	Mod Pathol	22	Aberrations of 6q13 mapped to the COL12A1 locus in chondromyxoid fibroma	Yasuda T	整形外科
61	Arthritis Res Ther	4:11(6)	Effect of small interference RNA (siRNA) for ADAM17 on intervertebral disc degeneration in the rabbit anular needle-puncture model	Yasuda T	整形外科
62	Clin Rheumatol	28	RA新薬開発の進展と関節炎に対するTNF阻害薬の臨床応用とX線学的経過	Saki S	整形外科
63	中野リウマチ	38(2)	抗TNF療法は衝動性関節炎の重症化を抑制できるのか?	Seki E	整形外科
64	中野リウマチ	38(2)	関節リウマチに対するシメチジン25mg/週1回投与の有効性	松下 功	リハビリテーション部
65	中野リウマチ	40(1)	関節リウマチ患者の荷重関節に対するTNF阻害薬の効果-2年以上の経過観察-	松下 功	リハビリテーション部
66	Hip Joint	35	関節リウマチに対するVerSys hip systemの臨床効果とX線学的経過	松下 功	リハビリテーション部
67	臨床リウマチ	21(4)	RA新薬開発の進展と関節炎に対するTNF阻害薬の臨床応用とX線学的経過	松下 功	リハビリテーション部
68	臨床リウマチ	21(4)	関節リウマチに対するシメチジン25mg/週1回投与の有効性	川口 善治	整形外科
69	小児腎臓病	9(1)	腎臓病と骨化性軟化症患者における全身性骨密度低下の診断と治療	中野正人	整形外科
70	Hip Joint	35	大腿骨頭転位手術後の骨頭部骨腫と臨床経過とその治療	伊藤秀彦	整形外科
71	中野腎臓病	52	骨化性軟化症に対するシメチジン25mg/週1回投与の有効性	伊藤秀彦	整形外科
72	JMAJ	52(2)	骨化性軟化症に対するシメチジン25mg/週1回投与の有効性	Saito S	整形外科
73	Ploanta	30	Gestational chorioncarcinoma in one placenta of dichorionic diamniotic twins who showed severe anemia	Shiozaki A	産科婦人科
74	Eur J Pain	13	Herbal medicine Shokuyaku-kenzo to reduce psoriasis-induced painful peripheral neuropathy in mice	Hidaka T	産科婦人科
75	日本産科婦人科	45	ワーキングママ121才の新しい原因探査と治療-本邦における不妊症のリスク因子とその予防に関する研究	齋藤 浩	産科婦人科
76	日本産科婦人科	27	婦人科腫瘍のリンパ腫に対する治療成績	日高隆雄	産科婦人科
77	産科婦人科	26	更年期障害における加味逍遥散の臨床効果	日高隆雄	産科婦人科
78	日本産科婦人科	46	当院における腹腔鏡手術合併症の検討	中野彰俊	産科婦人科
79	日本産科婦人科	45	ワーキングママ21 新たな妊産婦合併症の診断と治療	塚崎有宏	産科婦人科
80	日本産科婦人科	45	ワーキングママ41 切迫早産の治療-妊娠経過不良の胎前産後併発症の診断と治療	米田 智	産科婦人科
81	Grasies Arch Clin Exp Ophthalmol	247	The effect of clonidine on VEGF expression in human retinal pigment epithelial cells (ARPE-19)	Watanabe K	眼科
82	Jpn J Ophthalmol	53	Subretinal delivery of immunoglobulin G with gold nanoparticles in the rabbit eye	Havashi A	眼科
83	Jpn J Ophthalmol	146(3)	A Hyaeroid Amniotic Membrane Patch Using a Tissue Adhesive for Corneal Perforations and Bleb Leaks	Kitagawa K	眼科
84	臨床眼科	63(5)	網膜静脈血栓症に対するベリタスマブ硝子体内注射治療の効果	柚木薫也	眼科
85	眼科臨床	2(10)	あたらしい硝子体内注射療法-硝子体内注射療法による網膜静脈血栓症の治療	北川清隆	眼科
86	J Vestib Res	18	Self-motion perception during conflicting visual-vestibular acceleration	Ishida M	耳鼻咽喉科
87	Acta Otolaryngol (Stockh)	129	Changes in the characteristics of definite Meniere's disease over time in Japan: a long-term survey by the Peripheral Vestibular Disorder Research Committee of Japan, formerly the Japanese Meniere Society	Shojeki H	耳鼻咽喉科
88	Otol Neurotol	30	Recurrence rate of idiopathic sudden low-tone sensorineural hearing loss without vertigo: a long-term follow-up study	Fushiki H	耳鼻咽喉科
89	Int J Urol	16	Oral analgesia by non-steroidal anti-inflammatory drug zaltoprofen to manage cystoscopy-related pain: a prospective study	Komiya A	泌尿器科
90	J Andrology Suppl	30	Serum levels of sex hormones before and after androgen deprivation therapy in Japanese prostate cancer patients	Komiya A	泌尿器科
91	Int J Urol	16	Author's reply to letter to the editor to enhanced VDAC-cored VRAC in NE-LNCaP cells points to an involvement of eukaryotic porin in the extrinsic apoptotic pathway	Komiya A	泌尿器科
92	J Med Ultrason	36	Construction of artificial promoters sensibly responsive to sonication in vitro	Watanabe A	泌尿器科
93	Nishinton J Urol	71	Successful pregnancy and delivery using cryopreserved sperm from a patient with bilateral testicular tumors	Watanabe A	泌尿器科
94	The Prostate	69	Serum active hepatocyte growth factor (AHGF) in benign prostatic disease and prostate cancer	Yasuda K	泌尿器科

(注1)当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原稿として申請し、掲載されたもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に関するものとして判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる著者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表に於いて、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

No.	著者名	題名	所属	所属	部門
95	瀧野 隆	前立腺癌生検症例の検討	藤内 隆寛	泌尿器科	
96	西日本泌尿器科 71	当科における膀胱全摘除術施行症例の臨床的検討	藤内 隆寛	泌尿器科	
97	日本救急医学会誌, 17	前立腺生検と前立腺全摘除術の本質的相違について	今村 朋理	泌尿器科	
98	J Pharmacol Sci, 110	Pharmacological Significance of the Blocking Action of the Intravenous General Anesthetic Propofol on the Slow Component of Cardiac Delayed Rectifier K <sup>+</sup> Current	Hatakeyama N	麻酔科	
99	J Peripher Nervous Sys, 14	Activation of MAP kinases, Akt and PDGF Receptors in Injured peripheral nerves	Yamazaki T	整形外科	
100	日本神経腫瘍学会誌, 8(1)	医学部付属病院内科における口腔インプラント治療の現状	野口 誠	歯科口腔外科	
101	Dev Biol, 33(12)	BMP type II receptor regulates positioning of outflow tract and remodeling of atrioventricular cushion during cardiogenesis	Beppu H	整形外科	
102	Ann J Emerg Med, 27(2)	The Emergency Goma Scale for patients in the ED: concept, validity and simplicity	Takahashi C	救急部	
103	Scand J Trauma Resusc Emerg Med, 17	Can performance indicators be used for pedagogic purposes in disaster medicine training?	Wakasugi M	救急部	
104	Eur J Neurol, 16	clinical experience and review of the literature	Asahi T	救急部	
105	日本神経救急学会誌, 21	抗凝薬療法中に発症した脳出血の治療経験	若杉 雅浩	救急部	
106	Nephron Clin Pract, 111(3)	A circulating beta 2-microglobulin intermediate in hemodialysis patients	Uji Y	検査部	
107	J Pharmacol Sci, 110	Pharmacological Significance of the Blocking Action of the Intravenous General Anesthetic Propofol on the Slow Component of Cardiac Delayed Rectifier K <sup>+</sup> Current	Hatakeyama N	手術部	
108	日本臨床, 67増刊号(8)	抗プロスタミン剤の現況	高山 登	手術部	
109	Eur J Neurol, 16	Valacyclovir neurotoxicity: clinical experience and review of the literature	Asahi T	救急部	
110	高山大学医学部誌, 19	医学教育の一環としての化学災害訓練の試み	兼 隼人	救急部	
111	神経学的脳神経外科, 48	パーキンソン病に伴うcompocormialに対する脳深部刺激療法の効果	加 藤 十	脳神経外科	
112	神経治療学, 26	Parkinson病患者2名のcompocormialに対する両側視床下核深部刺激療法の効果と傍脊柱筋の関与	田口 芳治	神経内科	
113	APAMI 2009 Proceedings, 179-181, 2009	How Should the Electronic Medical Record System Contribute to the Clinicians? - As a Clinical Decision Making Support System with No Irritable Response -	Nakagawa H	経営企画情報部	
114	医療情報学, 28(Suppl)	外科施設からの媒体画像と紹介状の電子カルテシステム上の統合管理システム	中川 肇	経営企画情報部	
115	医療情報学, 28(Suppl)	企画セッション「標準コードと運用のあり方」項目設置の電子カルテシステム上の問題	中川 肇	経営企画情報部	
116	J Gastroenterol, 44	Diversity of mucosa-associated microbiota in active and inactive ulcerative colitis. Scand	Nishikawa J	第三内科	
117	腫瘍, 38	GERD診断の新たな非侵襲的検査法 modified Glucose Clearance Testの有用性	藤 浪 斗	第三内科	
118	Eur J Gastroenterol, Hepatol, 21	Letter to the Editor. Gestational Cholelithiasis in One Placenta of Dichorionic Diamniotic Twins who Showed Severe Anemia	Tairi K	第三内科	
119	Placenta, 30	Alpha 1 antitrypsin activity is decreased in human amnion in premature rupture of the fetal membranes	Shiozaki A	周産母子センター	
120	Mol Hum Reprod, 15(1)	Echocardiographic and electrocardiographic analyses of patients with severe motor and intellectual disabilities	Nomko Yoneda	周産母子センター	
121	Heart Vessels, 24	Infliximab reduces the cytokine-mediated inflammation but does not suppress cellular infiltration of the vessel wall in refractory Kawasaki disease.	Hirone K	周産母子センター	
122	Pediatr Int, 51	Hepatocyte growth factor in transient myeloproliferative disorder of Down syndrome	Hirone K	周産母子センター	
123	Circ J, 73	Cardiac resynchronization therapy in a 3-year-old girl with isolated noncompaction of the left ventricle and narrow QRS complex	Saito K	小児科	
124	Circ J, 73	Novel LAMP-2 mutation in a family with Danon disease presenting with hypertrophic cardiomyopathy	Dogu N	神経内科	
125	外科, 71	特異 胆嚢腫瘍方イドランを学ぶ。総論 3. 胆道腫瘍のエンビーズとコンセン	塚田 一博	第二外科	
126	日本周産期・新生児医学雑誌, 45	産科合併症の特性に関する研究	佐藤 有宏	周産母子センター	
127	日本周産期・新生児医学雑誌, 45	妊娠28週未満の胎児死産例の特徴と治療的取組の成績	米田 育	周産母子センター	
128	Lung Cancer, 64	Epidermal growth factor receptor gene amplification in surgically resected Japanese lung cancer	Sasaki H	腫瘍部	
129	J Cancer Res Clin Oncol, 135	EGFR R497K polymorphism is a favorable prognostic factor for advanced lung cancer	Sasaki H	腫瘍部	
130	Circ J, 73	Novel LAMP-2 mutation in a family with Danon disease presenting with hypertrophic cardiomyopathy	Dogu N	神経内科	
131	福原中 31	福原中治療方イドラン2004発表前後における急性期脳腫瘍治療の比較 高山県における多施設共同調査	高橋 修太郎	神経内科	
132	神経治療学, 26	Parkinson病患者2例のcompocormialに対する両側視床下核深部刺激療法の効果と傍脊柱筋の関与	田口 芳治	神経内科	
133	神経学的脳神経外科, 48	パーキンソン病に伴うcompocormialに対する脳深部刺激療法の効果の検討	旭 健士	脳神経外科	
134	日本病院薬剤師会誌, 45	外来化学療法におけるweekly/クリタキセルジムの標準化と治療期間の改善	高木 昭佳	薬剤部	
135	Phytochemistry, 16	Inhibitory effect of rhesimine isolated from Evodia rtaecarpa on aldose reductase activity	Kato A	薬剤部	
136	J Pharm Med, Lett, 2	Alkaloids inhibiting L-histidine decarboxylase from Simoumenium acutum.	Kato A	薬剤部	
137	J J Inflamm (Lond), 27	Inhibitory effect of IL-8 on insulin action in human adipocytes via MAP kinase pathway	高木 昭佳	薬剤部	
138	看護, 361	GERD診断の新たな非侵襲的検査法 modified Glucose Clearance Testの有用性	Kobashi C	専門医養成支援センター	
139	ホルモントと臨床, 57	甲状腺下垂体高分泌AGHの産生を抑制した下垂体microadenomaによるCushing病の1例	藤 浪 斗	専門医養成支援センター	
140	小児科, 71	当科に所属する医師等が、掲載した内容審査を行っている雑誌に研究発表を原稿として	小林 直子	腫瘍部	

(注1) 当該医療機関に所属する医師等が、掲載した内容審査を行っている雑誌に研究発表を原稿として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に関するもの(に限る)として申請し、100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について、主たる発表者の氏名を記入すること。

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 遠藤 俊郎
管理担当者氏名	経営企画情報部長 中川 肇 放射線部長 瀬戸 光 薬剤部長 足立 伊佐雄 看護部長 山口 千鶴子 総務企画グループ長 丸田 由男 医療サービスグループ長 奥田 豊子

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書	医療サービスグループ, 薬剤部, 看護部及び放射線部	カルテ等(電子カルテを含む。)の病歴資料は, 1患者1ファイル方式による永年一元番号で分類し, 外来カルテは最終受診日から8年以上, 入院カルテは退院日から10年以上の保存を原則としている。 また, エックス線写真は, 1患者1ファイル方式で, 最終使用日から8年間の保存を原則としている。これらは, コンピュータによる集中管理を行っている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者を明らかにする帳簿	総務企画グループ人事チーム
	高度医療の提供の実績	医療サービスグループ
	高度医療技術の開発及び評価の実績	総務企画グループ病院運営企画チーム
	高度医療の研修の実績	総務企画グループ病院運営企画チーム
	閲覧実績	総務企画グループ病院運営企画チーム
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービスグループ
	入院患者数, 外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービスグループ及び薬剤部
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	医療機関における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム	

	保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	院内感染のための指針の策定状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	院内感染のための委員会の開催状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	医薬品の使用に係る安全管理のための責任者の配置状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	総務企画グループ医療安全管理支援チーム	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく, 全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	総務企画グループ長 丸田 由男
閲覧担当者氏名	総務企画グループ 病院運営企画チーム 波多野 貴大
閲覧の求めに応じる場所	総務企画グループ 病院運営企画チーム

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	69.3%	算定期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	7999	人
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	4811	人
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	980	人
	D : 初診の患者の数	15080	人

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

## 規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.病院における安全管理に関する基本的考え方</li> <li>2.安全管理委員会その他の組織に関する基本事項</li> <li>3.医療に係る安全管理のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>4.事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>5.医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>6.医療従事者と患者様との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>7.患者様からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>8.その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.医療安全管理方針の策定及び推進に関すること</li> <li>2.インシデントの報告に関すること</li> <li>3.医療安全管理の教育及び研修に関すること</li> <li>4.医療安全管理対策の検討及び医療安全管理マニュアル作成に関すること</li> <li>5.医療の質向上への取組みに関すること</li> <li>6.重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること</li> <li>7.医療事故対応の意思決定・報告・広報に関すること</li> <li>8.その他医療安全管理に関すること</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 42 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>春季・秋季医療安全管理等研修会、インシデント事例検討会、医療安全推進のための講演会、医薬品・医療機器安全使用のための研修会</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>○医療安全管理室の専任スタッフが、インシデント報告書を毎日チェックし、3b以上の報告書など重要事例に関してGRMが事前に検証し、医療安全管理室長及び医療安全管理室ミーティングに報告する。必要に応じ同室長が特別事例検討会を開催し、事実経過把握と医療事故調査委員会開催の是非を検討のうえ、病院長に報告。</p> <p>○医療安全管理室ミーティングでは、インシデント報告のうち院内全体に関わる内容を中心に、システム的な問題の有無を検討し、改善策を医療安全管理委員会の承認を経て、全部署に周知する。</p> <p>○各部署においては、リスクマネージャーが中心となって、発生の背景や内容、予防対策について部署全体でカンファレンスを行う。(ローカルルールの作成及び検討)</p> <p>○インシデント事例検討会において、当該期間に発生した事例のうち2事例を選択のうえ発表し、質疑応答形式でディスカッションを行う。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 2名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有( 1名) <input type="checkbox"/> 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・所属職員：専任( 2 )名 兼任( 20 )名</p> <p>・活動の主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.インシデントの収集・調査・分析、発生要因の究明及び防止対策に関する事。</li> <li>2.医療事故防止対策の周知徹底に関する事。</li> <li>3.医療安全管理に係る病院内の巡視・点検・評価に関する事。</li> <li>4.医療安全管理に係る業務改善の提言・指導に関する事。</li> <li>5.インシデントの事例・対策等の情報収集に関する事。</li> <li>6.医療安全管理に係る教育・研修・啓発に関する事。</li> <li>7.医療安全管理マニュアル遵守の確認と成果の検証に関する事。</li> <li>8.医療安全管理委員会への情報提供及び改善策の提案に関する事。</li> <li>9.リスクマネージャー会議に関する事。</li> <li>10.医療事故情報の管理に関する事。</li> <li>11.インフォームドコンセントの適正運用に関する事。</li> <li>12.適切な診療録のあり方の検討及び情報公開への対応に関する事。</li> <li>13.その他医療の安全に関する事。</li> </ol>	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無



## 院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・指針の主な内容 1.院内感染対策に関する基本的な考え方 2.院内感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項 3.院内感染対策のための病院従業員に対する研修に関する基本方針 4.感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5.院内感染発生時の対応に関する基本方針 6.患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針 7.病院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容 1.感染予防対策の確立に関すること 2.感染予防の実施、監視及び指導に関すること 3.感染予防の啓発及び教育に関すること 4.感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること 5.感染予防対策の評価及び改善に関すること 6.感染予防対策に係る情報の収集に関すること 7.その他感染予防に関すること	
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 25 回
・研修の主な内容 看護部新人職員研修、中途採用者オリエンテーション、昇任副看護師長研修、感染予防対策講習会、感染対策研修会(委託業者)、育児休暇明け研修、昇任看護師長研修	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 ○院内感染サーベイランスを実施し、データ分析・評価し、感染予防対策の見直し看護ケアの改善につなげる。 ○院内感染情報レポートを活用して、職員への情報提供を行う。 ○院内ラウンドを通して、感染防止技術に関する確認・指導を行う。	

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・活動の主な内容 ・第5次医療法の改正について ・医薬品の業務手順書について ・医薬品安全使用について ・消毒薬及び抗菌薬について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	年 1 回
・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 1. 医薬品の採用・購入に関する事項 2. 医薬品の管理に関する事項(麻薬等の管理方法等) 3. 患者の持参薬歴の収集方法、処方箋の記載方法 4. 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 5. 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 6. 他施設(病院等、薬局等)との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容  ○メーカーからの緊急連絡及び医薬品医療機器情報提供ホームページ等から情報収集し、必要な医薬品情報は、薬事ニュースの配布及び電子掲示板で情報提供。  ○副作用による健康被害情報を病院長に報告のうえ、厚生労働省に報告。	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 25 回
※総合研修2回、個別件数23回	
<p>・活動の主な内容</p> <p>○主として、次の医療機器の安全使用のための研修を実施。</p> <p>人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置(AEDを含む)、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	年 1 回
※特定8品目年1回、随時日常保守点検	
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p>	
<p>・業務の主な内容</p> <p>○使用者がチェックリストに基づく使用前、使用中、使用后点検を基本とする。さらに、使用部署もしくは医療機器管理センターで、器機の使用状況、程度に応じ、使用毎や年1回から4回程度の詳細点検を実施。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p>	
<p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>周知方法</p> <p>○病院総合情報システムの掲示板で、電子化された添付文書等の掲示や、医療安全管理委員会からリスクマネージャー経由で、電子メールによる通知を行っている。</p> <p>また、不具合等に関する情報は、病院長等管理者に報告のうえ、厚生労働省に報告している。</p>	